

1 年学年通信

大学を知る・学部を知る⑳ 先輩のいる大学⑭

神戸市外国語大学 「行動する国際人」育成を目指す

1946年設立の神戸市立外事専門学校を祖とする。英米・ロシア・イスパニアの各学科は、3年次から語学文化コース・法経商コース・総合文化コース・国際コミュニケーションコースに分かれる。

●**外国語学部** 学科定員 計430 〈学部〉英米140, ロシア40, 中国50, イスパニア40, 国際関係80 〈第2部〉英米80

英米学科と第2部英米学科(夜間)では、確かな英語力と幅広い教養、英語圏の文化や社会に関する専門的な深い知識、豊かなコミュニケーション能力を備えた実力ある国際人を養成する。

ロシア学科では、ロシア語の文法習得や、発音訓練のほか、話し言葉と書き言葉の違い、表現方法などを知り、ロシアの文化や制度を学ぶ。

中国学科では、中国語の初級段階で徹底した発音指導を行い、中・上級で「聴く・読む・話す・書く」の実践的な運用能力を養う。

イスパニア学科では、スペイン語を必修とし、文法から講読、作文、会話まで学ぶ。また、スペインやラテンアメリカの文化を深く探究する。

国際関係学科では、時事英語など現代の国際関係の理解に必要な語学力の獲得とともに、国際社会の現状について学ぶ。

集団として生き延びていくために

先号からの続き

鷲田清一元大阪大学総長は語る②

東京の街は自分たちの生活の基盤を、自分たちのコミュニティで制御できなくなっている。グローバル市場に振り回され、原油価格に振り回され、物価ひとつ流通ひとつコントロールできない。

震災以降、物流にしろ食材などの確保にしろ、最低のことは自分たちで確保しとかなければ、でない子どもも育てられへん。そのことを皆多かれ少なかれ感じてるんじゃないかな。今、起業というとベンチャーをやって上場を目指すことと思いがちだけど、ほんとの起業というのは等身大のサイズでいろんなネットワークをつくり、いろんな複業ができるようになること。それがほんまの起業やと思うんですけどね。

適正サイズを考える

はっきりいって経営者ですら自分の会社をコントロール不能になっているわけです。会社の方針を決めようと思っても、株主が喜んでくれる方策しか取れないじゃないですか。

そうしないと株主総会でクビ切られるから。ということは、経営者だって会社の先行きを決められない。

そういう意味で、自分の商売を自分たちの意思である程度コントロールできる、起業の適正サイズをもう一度考え直さなければならないのは必然です。

ネットワークを複数維持できるコミュニティのサイズってどれくらいだろうか。いわゆる株式市場などのまったく偶発的な要素に左右されないで、細く長く、儲かりはしないけど、暮らしはずっと安心して維持するにはどうすればいいか。昔の老舗じゃないけれども、そのような商売の形を模索しているのでしょう。

ゴリラ研究の京都大学総長の山際壽一さんが言ってたけど、人間が顔を見分けられるサイズは、150~160。だからひょっとすると、それがコミュニティの適正サイズかもしれません。

そのサイズの会社で、いろいろやっとなあかんわけです。単業にするとほきっと折れたら終わりですから。しかもその折れ方は、自分たちのミスやなしに、市場の機能不全、事故でばたっと折れることがある。会社というのは複数の顔があって、複数の事業をやっていて、一つほきっと折れてもこっちの利益で穴埋めしてやらないといけな。一人ひとりが商人やなしに、複数の商人、働き手が集まって会社を興すことの意味はそういう保険もあるわけです。

保険は裏返したら、一人で出来ないギャンブルや冒険ができるということ。もう一歩先までアドベンチャラスなことができるんです。会社ってまさにチャレンジするために皆で組むんですね。

ところが大企業になってしまうと、暮らしがコミュニティと全く関係がなくなり、地域にとって本当の意味で公的な存在ではなくて、組織とそこに投資する人の利益還元をまず第一に考えるという私的な組織活動になってしまう。だから、企業を一度公器に戻すことと、適正サイズを考えること、しっかり複業すること、それと職住一致、暮らしと仕事と同じ場所にある、それが我々が集団として生き延びていくために一番まっとうなやり方です。



儲けられるときに儲けすぎたら あきまへんえ

昔、漆の女性家元の中村宗哲さんがゆうてはりました。京都の商家では昔から言い伝えられていることがある、儲けられるときに儲けすぎたらあきまへんえ、って。自分の仕事で稼げる仕組みだけですってやってなさい。儲けられるときに儲けすぎたらあかんゆうのはそういうことです。どんな企業もビジネスチャンス、ビジネスチャンスと口を揃えていう。つまり少ない投資で労働しないで稼ぐと言うことがグローバル化のメインストリームになっているわけです。そこから降りる覚悟がこれからは必要です。

もちろん、もう一度適正サイズの経済、経世済民活動に戻るためのグローバルな市場からの風圧はすごいでしょうね。でも今、ある意味では世界中どこも同じことが起きている。静かやけどさうとう大きな革命みたいなことが起これないとおかしいって感じはしますけどね。

実際、収奪する残りの場所が完全になくなっているわけですから。アメリカももう篡奪というわけにはいかないから、若い連中、格差拡大だ、というふうに自国民から篡奪し、自分たちの社会を壊すとこまできているわけです。そりゃあパンクしますよね。

じゃあ、そういう中でどういう人材が求められるか。それは「甘え上手な人」だと思います。つまり自分1人でやるのが大変なときに「手伝って」と言える人になる。もちろん人に頼ると言うことは、自分も人に頼られたりせんならんから、自分に得にならんでも、人のために自分の時間をやるということができなければならぬ。まあええね、ちょっとやったるわという気前のよさが大切になるのではないかと思います。

「気前のよさ」ということ

実はこれが自由の語源でもあります。

自由、リベラル (liberal) ということは、気前がいいということ。一番が「気前がいい」、二番目が「寛容」、三番目が「plenty of たっぴりある」で、四番目が「自由」。なぜ「気前がいい」のかというと、自分へのこだわりから自由になる、解き放たれるという意味がリベラルのもともとの意味なんです。寛容もさうでしょ。自分の利益ばかり考えないで、人の幸せを考える、そういう自分の妄執から解き放たれる。「いっぱいあるで」というのは、ケチになりようがないくらいあり余って、あげるね、これが自由の本当の意味なんですよ。

これもこないだ初めて知ったんやけど、心ってね、肩こりと語源が一緒なんやて。「こる→心」。だから心というのはどっか存在が凝っているときに感じるもの。心って懲りやすいからほぐさんとあかん。だから自分にこだわらないというのは、その疑いをほぐすことになる。所有欲、自分へのこだわり、プライドというのが疑いを生むわけです。

長く続いている言葉って、大事な意味があるもんなんです。もとの意味に帰ると、(ただしこれはとても難しい作業なんです)、意外とヒントになるんですよ。

日本語の「旦那」と英語の「ドナー」って語源が一緒なんです。サンスクリット語に「ダーナ」という言葉があって、「ダ

ーナ」が「ドーン」という言葉になり、フランス語で言う「贈り物」という言葉になり、英語になると「ドナー」。フランス語でも「与える」って、「donner」っていうでしょ。それは「ダーナ」から来ている。東に行くと「ダーナ」が「ダンナ」になった。「ドナー」は自分にとって一番大事なもの、臓器をあげる人。旦那は、商売人にとって大事な金を丁稚さんにあげたり、愛人さんにあげたり、可愛がっているお相撲さんとかにあげるわけです。自分の一番大事なものをあげるという意味で一緒なんです。

水も、アクア、水族館のアクアリウムは日本で「闘伽棚」となる。闘伽ってというのは佛教語で水のことです。ほんとうに大事なことって、グローバルに広がっていることにびっくりする。ほんとの意味でのグローバル化ってこういうことです。今のグローバル化が評価基準やルールの一元化という世界水準を据えようとしているのとは、まるで違います。

ガラパゴスでいいんですよ。本来の、ずっと変わらん意味を一つ一つ思い出していったらいい。

文理融合という言葉も、文の対立項は理ではない。文も理も石の模様、あやという意味で、もともとは一緒です。文の対立項は文武両道の武。本来の対立が文理にずらされている。町方地方の対立が、知らんまに中央・地方になっているように。

世界資本主義にとっては、衣食住・学問・芸術・宗教のみならず、政治のやり方、ものづくりのやり方、商売のやり方、こうした文化の固有性は全て障壁になってしまう。それをブルドーザーでわっとかき分けていくためにグローバル化がある。けれど、大事な言葉が世界中で自然に広がっていったような動きが、本来のグローバル化なんです。

そのもともとの言葉の意味に帰するような小さな動きが、静かな革命として各地で起っているような気がします。イタリアのある小さな村と日本のとある村が交わる、というような動きが、じわーと広がり、やがて大きな革命へとつながるんじゃないかな。片方から篡奪するのではなく、両方が儲かるような金儲けの方法を考える。合意形成が上手に出来るようになるディスカッションの仕方を勉強する。そうした力を備えた「気前がいい人」が、今後求められる人材だと思います。

そして、社会・コミュニティとしても、適正サイズでコミュニティを維持し、複業と複業のネットワークを維持していく。そういう行為が、将来のリスク回避にもなるし、新しい時代の土台にもなっていくはずですよ。

(ミシマ社 『ちゃぶ台 vol2』より)

高校2年0学期のまとめのために

- 英語・数学・国語の基礎基本の確立
- 4月課題考査の勉強をしっかりとやる。
- スタサブでどんどん自主的に学習を進める。
- スタサブで興味のある講座を先取りして見ていく。
- 理系に進む者は、数学・理科を、文系は地歴の科目が武器になるように磨く。まず好きになる。
- そのためにスタサブを自在に利用する。
- 勉強習慣確立。→絶対毎日英語をやる。自分にあったノルマを決める。
- 部屋の掃除。□高校2年の予習をはじめます。